



神明中だより

<http://www.suginami-school.ed.jp/shinmeichu/>

教育目標 創造・鍛錬・共生 校訓 自主・自律

令和3年 5月18日

5月号

杉並区立神明中学校

杉並区南荻窪2-37-28

今年度もコロナ禍の中で

副校長 大柴 浩一

今年度もコロナ禍の中、制限された中での学校生活。時代を超えて変わらない情景が今年も見られないことがある。「密」を避けるために卒業式・入学式への保護者や在校生の出席を制限し、合唱を見送る学校が少なくない。本校においても昨年度一年間をコロナ禍の中で過ごしてきました。体育大会・修学旅行は、いろいろな方からの協力を得ながら何とか実施することができました。スキー移動教室・文化発表会は、残念ながら実施できませんでした。今年度は、先日一年生のフレンドシップスクールもコロナ禍の中ではありませんでしたが、感染防止対策を行いながら実施しました。生徒達もそんなことを強く感じてくれた行事となりました。＜知らない人から何かしてもらった子どもたちは、やがてきっと知らない誰かに対しても、何かしてあげられる大人に育つはずです＞応援メッセージが、心にしみます。

With コロナの時代、いつもどんなことにも満点を目指してしまう。完璧な人がいないように、全ての事項で満点を取るなどできはしない。合格点を目指して歩み続ける。それが大切ではないだろうか。

ゴルフはなぜ18ホールで競うのか。1764年、スコットランドのセントアンドルーズのコース改造でたまたまそうなったからだという。日本の一流選手が挑戦しては惜しいところで敗れてきたメジャー大会で、松山英樹選手が栄冠を射止めた。マスターズ・トーナメント優勝の偉業は、沈みがちな気分を明るくするニュースだろう。松山選手は優勝者に贈られる「グリーンジャケット」に袖を通し、両手を振り上げて喜んだ。つられてほほ笑い・涙ぐんだ人は多かろう。

詩人の杉山平一さんに「蕾」という作品がある。＜誰がつくった文字なのだろう/草かんむりに雷とかいて/つぼみと読むのは素晴らしい・・・とき至って野山に/花は爆発するのだ＞あまり感情を表に出すことのない松山選手が、春の鮮やかな芝生の上で満面の笑みをたたえた。マスターズへの挑戦は10度目になる。蕾のままでいた時間は短くない。爆発する花を思った。松山選手を支えたキャディーの行動も話題を呼んだ。優勝後、最終18番のグリーンでピンをカップに戻した後、脱帽してコースに向かって一礼。このシーンを映した動画が米メディアのSNSなどで反響を呼び、「コースに敬意を示す素晴らしい振る舞いだ」など称賛の声が上がった。

こんな思いを心に秘めて。普通の生活にもどる日まで・・・。

《4月のアルバム》

《4月21日（水）生徒総会〔放送開催〕》



《4月23日（金）離任式〔オンライン開催〕》



《1年生フレンドシップスクール》

〔4月28日（水）さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト〕



【5・6月の予定】

5/18（金）耳鼻科検診（全）
19（水）眼科検診（全）
20（木）心臓検診（1）
内科検診（3）
26（水）普通救命講習（1）
27（木）全国学力調査（3）

6/ 5（土）体育大会
22（火）～24（木）期末考査
25（金）音楽鑑賞教室（2）
26（土）土曜授業（3時間）
セーフティー教室薬物防止（3）
進路説明会（3）